

このたびは、検電・配線チェッカーをお買い上げいただきましてまことにありがとうございました。お読みになった取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

ご使用前に本書を必ずお読みください

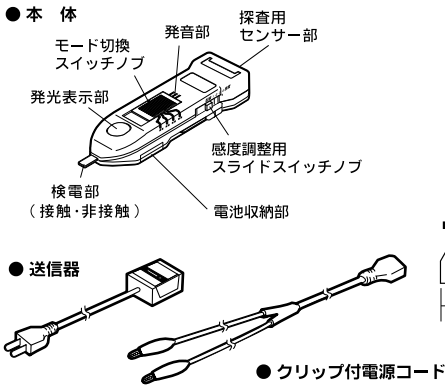
警告

- ご使用前に検電機能、ブレーカー探査機能について既知の電源で確認してください。
- 検電/ブレーカー探査の際は周囲の状況に十分注意してください。感電の恐れがあります。
- 検電器/受信器、送信器を無断で改造したり分解しないでください。重大な事故の原因になる恐れがあります。

注意

- 使用を開始する前に本器の外観構造等に異常が無いかを点検してください。
- 被覆検電機能において接地されていない金属管、ケース等は誘導電圧で動作することがあります。
- ブレーカー探査が終了すれば速やかに送信器のプラグを抜いてください。
- 雨中では危険ですので使用しないでください。
- 保管する場合は直射日光の当たらない乾燥したところに保管してください。
- 本説明書に書いている用途以外には絶対に使用しないでください。
- 子供には手を触れさせないでください。

セット内容・仕様



寸法図

特長

1 検電器機能

- ①直接検電：コンセント等の充電部に直接接触させて検電ができる。
 - ・被覆検電では判別出来ない場合に使用する
 - ・接地側、活線側の判別もできます
- ②被覆検電：ケーブルの被覆の上に乗るだけで検電ができる。
 - ・接地側、活線側の判別もできます
- ③導通テスト：導通テストができる。
- ④極性チェック：電池の土の極性チェックもできる。
- ⑤検電機能使用時はオートパワーON/OFF回路動作のため電池の消費を最小限に押さえることができます。

2 ブレーカー探査機能

- ①同梱の送信器を併用することにより活線状態でブレーカーの探知ができる。
- ②電源の切り忘れによる電池の消費を防ぐ為、オートパワーOFF回路搭載。(約3分)
- ③検出分解能は20mm以上です。近くに活線等があると判別できないことがあります。

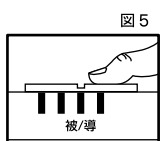
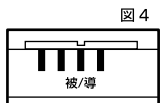
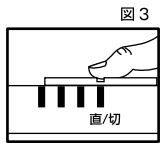
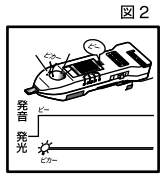
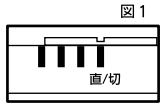
用途

本器は従来の検電器機能に加え、送信器を併用することによりブレーカーの探知、電気配線経路を探索することができますので、リニューアル工事等に於ける配線経路の事前チェックに威力を発揮します。

ご使用前の確認

モード切替スイッチノブを(直/切)の位置(図1)から(被/導)の位置(図4)に切換えスライドスイッチノブに親指を触れながら(図5)もう一方の手で検電部に触れるとピー音と同時に発光表示部の4個のオレンジ色のLEDのうち検電部に近い側のLED1(1個)がピカーと光ります。(図2)

この時発光表示部の発光が弱いかまたは発光しない場合は電池が消耗している可能性がありますので、新しい電池に交換してください。



検電する場合の使用方法

A) 導体に直接触れて検電する場合

モード切替スイッチを(直/切)の位置(図1)に切換え、スイッチノブに触れながら検電を行う。(図3)

- ①非接地側(活線側)の導体に触れた場合はピーという連続音と共にピカーと連続発光します。(図2)(検電部に近い側のLED1(1個)が点灯します)
- ②接地側の場合は音も光も反応しません。

B) 被覆の上から検電する場合

モード切替スイッチを(被/導)の位置(図4)に切換えスイッチノブに触れながら電線ケーブルの上から検電を行う。(図5)(検電部の平らな部分を被覆に当てるようにしてください)

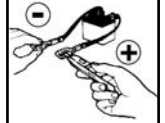
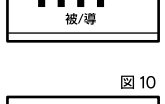
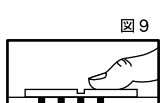
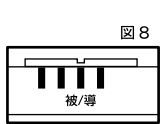
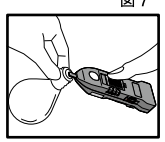
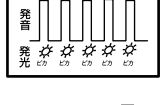
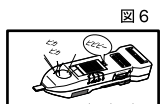
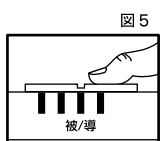
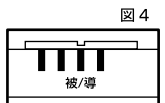
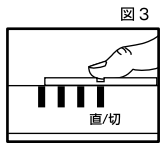
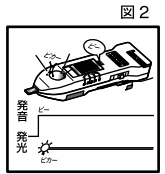
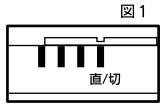
- ①非接地側(活線側)の導体に触れた場合はピピ...という早い断続音と共にピカピカ...と早い断続発光します。(図6)
- (検電部に近い側のLED1(1個)が点滅します)
- ②接地側の場合は音も光も反応しません。

C) 導通をチェックする場合

モード切替スイッチノブを(被/導)の位置に切換え(図8)、スライドスイッチノブに親指を触れながら片方の導体に手を触れ(図9)、もう一方の導体に検電部当てる(図7)と導通している場合はピー音と同時に、発光表示部の4個のオレンジ色のLEDのうち検電部に近い側のLED1(1個)がピカーと光ります。(図2)

D) 直流電源の極性をチェックする場合

モード切替スイッチノブを(被/導)の位置に切換え(図8)、スライドスイッチノブに親指を触れながら片方の端子に手を触れ(図9)、もう一方の導体に検電部を当てる。(図10)検電部を当てた部分が(+)極性の場合は、連続ピー音と同時に、発光表示部の4個のオレンジ色のLEDのうち検電部に近い側のLED1(1個)がピカーと連続発光します。(図2)検電部が(-)の場合は、音も光も反応しません。尚、電源の電圧が0.8V以下の場合は極性の判別は出来ません。



ブレーカー 探査機能部の使用方法

A) 100Vコンセント使用時の探査手順

〈送信器側〉

このブレーカー探査機能は活線状態においてそのコンセントに対応するブレーカーを捜したい場合に送信器を併用して使用します。

- 送信器より出ているACプラグを探知したい活線状態のコンセントに差し込む。(図11)電源が入ると送信器のLEDが点滅します。(1秒間に約2回)

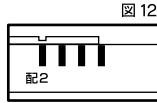
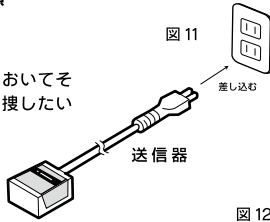


図13



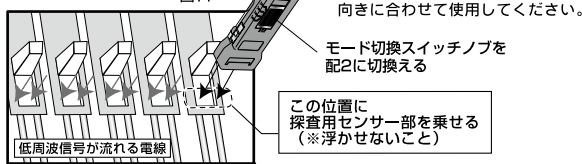
〈受信器側〉

『2極切りブレーカーの場合』

※2極切りブレーカーが一般的です。

1. 本体のモード切替スライドスイッチを"配2"の位置に合わせる。(図12)
2. 配線感度調整スライドスイッチを感度大の方向(4)に設定する。(図13)
3. 分電盤の扉を開け、ブレーカーのハンドル部に受信器の探査用センサー部を順次当ててください。(図14)

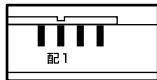
●配電盤の部分図



『1極切りブレーカーの場合』

1. 本体のモード切替スライドスイッチを"配1"の位置に合わせる。(図15)
2. 配線感度調整スライドスイッチを感度大の方向(4)に設定する。(図13)
3. 分電盤の扉を開け、ブレーカーのハンドル部に受信器の探査用センサー部を順次当ててください。(図16)※浮かせて測定しないでください。

図15



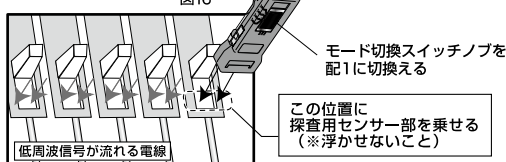
《判定》

発光表示部のLEDの点灯個数が最も多く点滅した位置のブレーカーが該当するブレーカーです。この時ピツ、ピツという断続音の大きさも判定の参考になります。尚、LEDの点灯個数が多く判定がつかない場合は配線感度調整スライドスイッチの位置を換え、相対的にLEDの点灯個数による差が分かる様に配線感度を調整してください。判定は相対的にLEDの点灯個数が多く、断続音の大きい位置のブレーカーが該当するブレーカーです。

〈判定上の注意〉

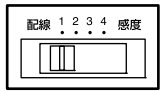
- 電源ラインにノイズの発生する機器が接続されている場合、判定用のLEDが点灯したり、ブザーが(ピーピー音等)鳴ります。探査信号の周期的な断続音(1秒間に約2回)に注意しながら判定してください。
- 該当するブレーカーの近くのブレーカーでも同等の判定用LEDが点灯する場合があります。分電盤のカバーを開け直接ブレーカーのハンドル部に当てて測定すると分かりやすいです。(図14)それでも判定が困難な時の最終判定は負荷線に受信器の探査部を当てて確認してください。(図16)※浮かせて測定しないでください。

●配電盤の部分図



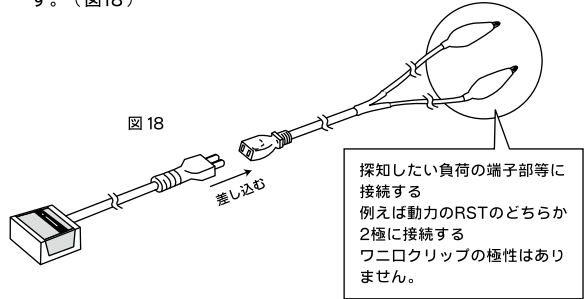
尚、信号強度に合わせて配線感度調整スライドスイッチを適当な位置に調整しますが通常"1"の位置が適当です。(図17)

図17



B) 100Vコンセント以外の負荷使用時の探査手順

- 送信器より出ているACプラグをワニ口クリップ付きコードのソケットに差し込むと共に探知したい負荷の端子部に鱈口クリップを接続します。(図18)



〈受信器側〉

- 100Vコンセント使用時の探査手順と同じ手順で探査します(1秒間に約2回)

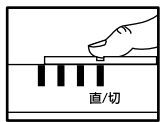
○ご注意

1. 探査は必ず活線状態で行ってください。
2. 探査用送信信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探知できません。ノイズの原因を取り除いてから探査してください。
3. 高効率型蛍光灯などの入力側にコンデンサーの付いた機器が負荷されている場合・その影響で該当ブレーカーの特定ができない場合があります。
4. トランスや大電流経路など強磁界の発生している近く、また無線機など強電磁界の発生している近くでは探査できない場合があります。
5. 漏電している配線経路は探査できない場合があります。
6. 負荷側に何も接続しない状態で探査してください。

検電及びブレーカー探査を終了する場合

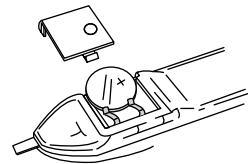
検電及びブレーカー探査を終了する時は、モード切替スイッチノブを(直/切)の位置にしてください。(図3)ブレーカー探査機能位置で切り忘れた場合オートパワーOFFしますが、この場合は次に使用する際、一度(直/切)の位置に戻してから再度機能に合わせて切替え直してください。(図3)

図3



電池の交換時期と方法

使用中発音・発光が弱々しい場合は電池が消耗している可能性があります。電池の交換方法は下図を参照してください。



検電・配線チェッカー(SEC-950)専用 死線用アダプター AD-950P 取扱説明書

このたびは、死線用アダプターAD-950Pをお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。

ご使用前に必ず本書をお読み下さい

用途

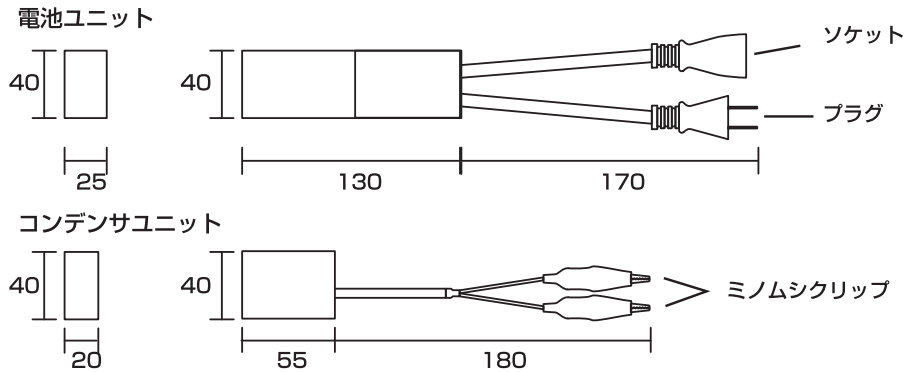
本器は、検電・配線チェッカーSEC950に接続することにより、通電されていない死線状態の電気配線経路・一般配線経路の探査をすることができますので、新築・リニューアル工事等における配線経路の事前チェックに威力を発揮します。

特長

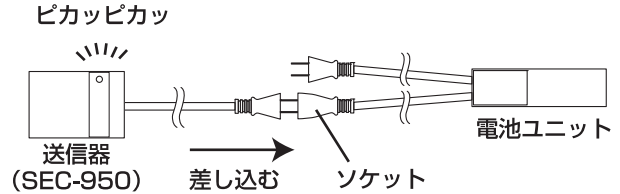
通電されていない死線状態の電気配線経路を探査することができる

ご使用前の確認

(図1)の様に、SEC-950の送信機のプラグを電池ユニットのソケットに差し込んで、送信機のLEDが発光してピカッ・ピカッと点滅することを確認してください。この時、送信機のLEDの発光が弱い、または発光しない場合は電池が消耗している可能性がありますので、新しい電池に交換してください。



(図1)



(図2) 探査方法

死線配線経路を探査する場合の使用方法

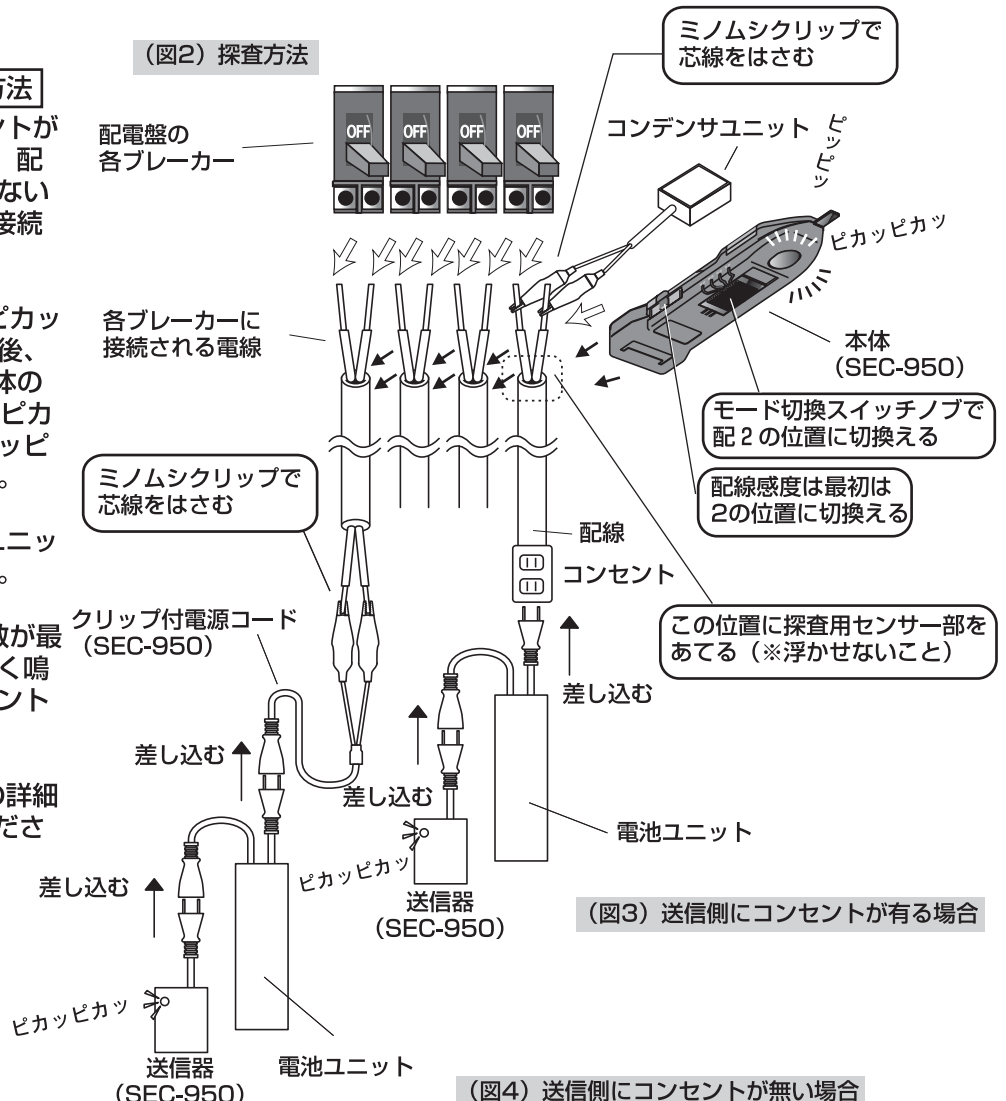
1. 探知したい配線経路先端にコンセントが接続されている場合は(図3)の様に、配線の先端にコンセントが接続されていない場合は(図4)の様に、各ユニットを接続してください。

2. 接続が完了したら送信機のLEDがピカッピカッと点滅していることを確認した後、(図2)の様に点線で囲んだ位置に本体の探査用センサー部を当て本体のLEDがピカッピカッと点滅する状態やブザーがピッピッと鳴る音の状態を観察してください。

3. この操作を各配線毎にコンデンサユニットを接続しながら順次行ってください。

4. 上記の操作の結果、本体のLEDの数が最も多く点滅し、ブザーの音が最も大きく鳴る配線が、送信機が接続されたコンセントに接続されている目的の配線です。

5. 尚本体の操作方法、感度調整方法の詳細はSEC-950の取扱説明書をごらんください。



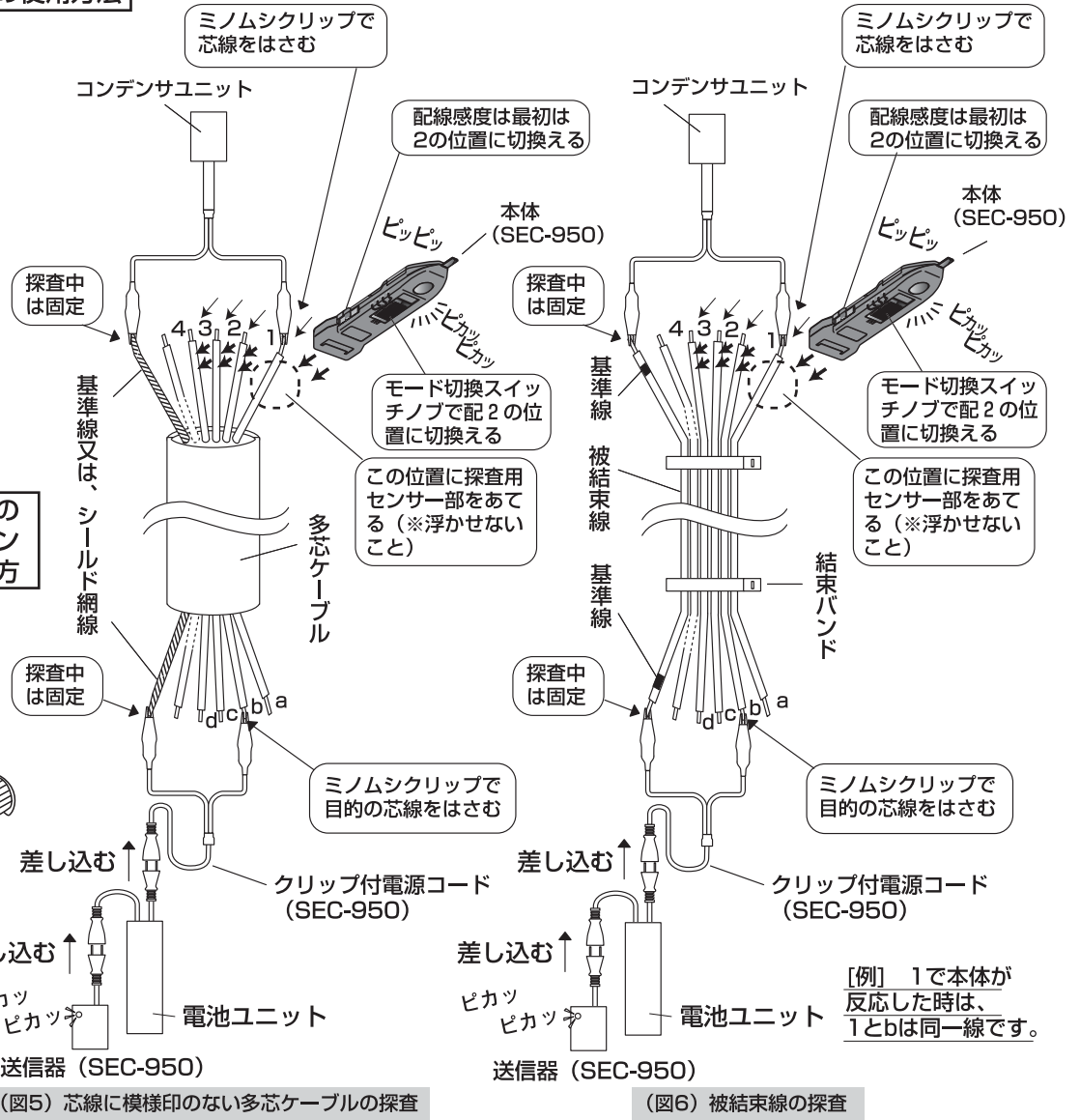
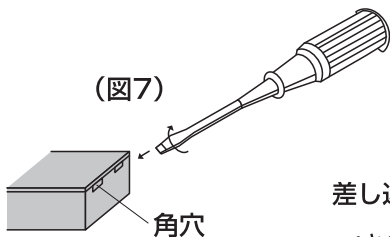
一般配線経路を探索する場合の使用法

1. 各芯線に模様印の付いていない多芯ケーブル、各種の線が数多く束ねられた結束線等の一般配線経路を探索する場合は(図5)、(図6)の様に各ユニットを接続してください。

2 本体の操作方法、感度調整方法は上記の[死線経路を探索する場合の使用法]と同様なのでそちらを参照してください。

電池交換時、ヒューズ交換時の電池ユニットケース、コンデンサユニットケースの蓋の開け方

(図7)の様に適当な大きさのマイナスドライバーの先を角穴に差し込んで回しながらこじあけてください。

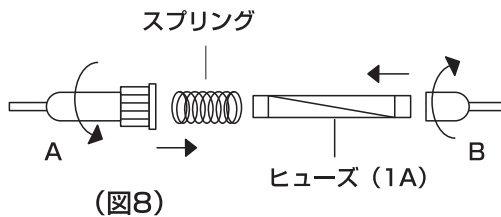


(図5) 芯線に模様印のない多芯ケーブルの探索

(図6) 被結束線の探索

ヒューズの交換方法

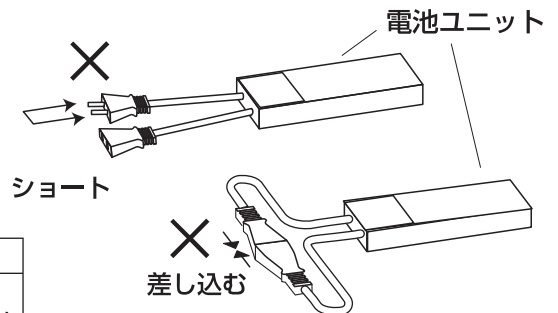
誤って通電されている配線に、電池ユニット、コンデンサユニットを接続された場合、保護ヒューズが溶断しますので、その時は(図8)の様にヒューズホルダーのAとBの部分を矢印の方向に回しながら、ヒューズホルダー内のスプリングを紛失しない様にして、ヒューズ(1A)を交換してください。



(注意) 事故の原因になりますので、指定容量(1A)以外のヒューズを使用しないでください。

注意

- 電池の寿命が短くなりますので下記の事に御注意ください。
- 電池ユニットのプラグの金属部分をショートさせないでください。
- 電池ユニットのプラグとソケット同志をお互いに差し込まないでください。



仕様

電池ユニット 電池寿命 アルカリ：70時間 マンガン：35時間 電池：006P・9V×2 保護ヒューズ：1A(5.2Φ×20mm) 重量：195g ACプラグ・ACソケット付	コンデンサユニット 耐電圧：25VD.C無極性 保護ヒューズ：1A(5.2Φ×20mm) 重量：51g ミノムシクリップ付
--	--